



**Daiwa House**<sup>®</sup>  
Group

生きる喜びを、未来の景色に。

大和ハウスグループ 統合報告書 2025



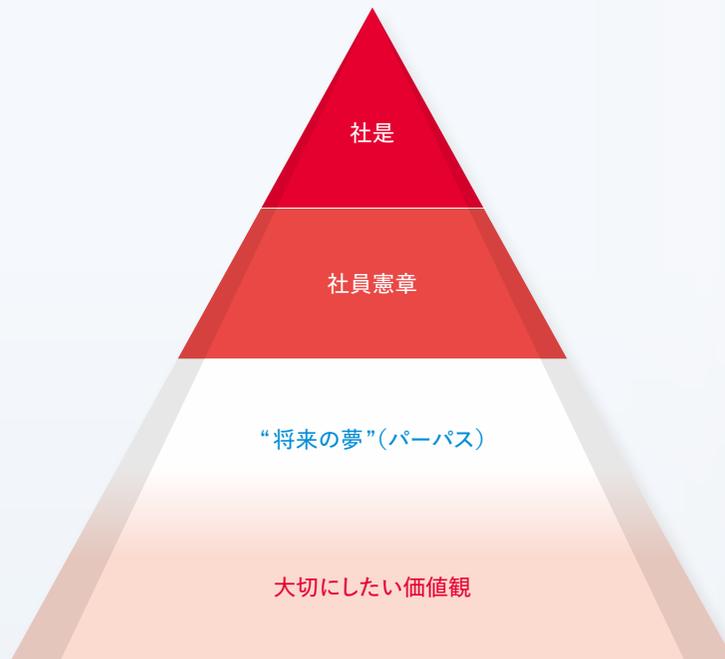
大和ハウスグループ理念体系を軸に、

3つの基盤が生み出す価値創造力で循環型バリューチェーンモデルを推進し、企業価値向上につなげます。

1955年「建築の工業化」を理念に創業

世の中の役に立つという考え方で価値創造

大和ハウスグループ理念体系



「事業を通じて人を育てること」から始まる創業者精神を原点とした社是、そして私たちの行動指針である社員憲章。創業100周年に向け、世界から愛される会社となるための「大切にしたい価値観」を胸に、「将来の夢」(パーパス)を羅針盤として歩み続けます。

Web サイト: 大和ハウスグループ理念体系

ビジネスモデル



お客さまと建物に責任を持ち続け、将来にわたって生み出される価値を最大化

土地・不動産情報を起点に、ハウジング領域やビジネス領域、そして複合的なまちづくりなど幅広いニーズに応え、社会課題を解決し付加価値を創出します。

事業を通じた社会課題の解決 — 社会価値と経済価値の両立

ハウジング  
ソリューション

幅広い事業領域を  
カバーする  
製品・サービス

ビジネス  
ソリューション



2大本部制による組織機能の強化 ▶ P.96

複合的な事業提案力とビジネスモデル ▶ P.28

事業の推進 ▶ P.37

幅広い事業ポートフォリオを活かし、グローバルでも地域密着型で事業を拡大。

そしてマテリアリティに取り組むことで、事業成長と社会・環境への好影響をもたらす価値創造プロセスの循環を創出し、“将来の夢”(パーパス)の実現を目指します。

事業を通じた社会課題の解決 — 社会価値と経済価値の両立

2055年“将来の夢”(パーパス)で目指す社会



米州



日本

日本で培った  
幅広い事業領域を活かし  
安定成長を実現する  
グローバルでの  
エリアポートフォリオを拡大



東アジア/  
ASEAN・  
南アジア/  
大洋州



欧州・他

マテリアリティ

グローバルイゼーション

地域社会の再生

サーキュラーエコノミー  
&カーボンニュートラル

デジタル変革

DE&I

ガバナンス



2055年  
“将来の夢”(パーパス)  
生きる喜びを、  
未来の景色に。

生きる喜びを分かち合える  
世界の実現に向けて、  
再生と循環の社会インフラと  
生活文化を創造する。



## 編集方針とコミュニケーションの全体像

### 編集方針

本書は、当社グループの持続的な価値創造の全体像を価値創造ストーリーとして、株主・機関投資家をはじめとした幅広いステークホルダーの皆さまにご理解いただくために発行しています。

当社は、社会の公器として、グローバル化や、経営課題が多様化し複雑になる中、私たちの存在意義・創り出したい未来を“将来の夢”(パーパス)として策定しました。本年度は、その実現に向けて、70年間の課題解決により構築された事業ポートフォリオや、エアポートフォリオについて説明するとともに、事業戦略や財務戦略といった財務情報と、将来の企業価値向上に資する環境・社会への取り組みや強固なコーポレートガバナンスといった非財務情報を統合し、当社独自の強みを活かしたビジネスモデルで生み出される経済価値と社会価値についても説明しています。

なお有価証券報告書やサステナビリティレポートなどの各開示媒体では、幅広い取り組み・実績等をご紹介します。本書は其中でも、特に企業価値向上に影響を与えるマテリアリティ・重点テーマにフォーカスし、お伝えしています。

#### 【表紙について】

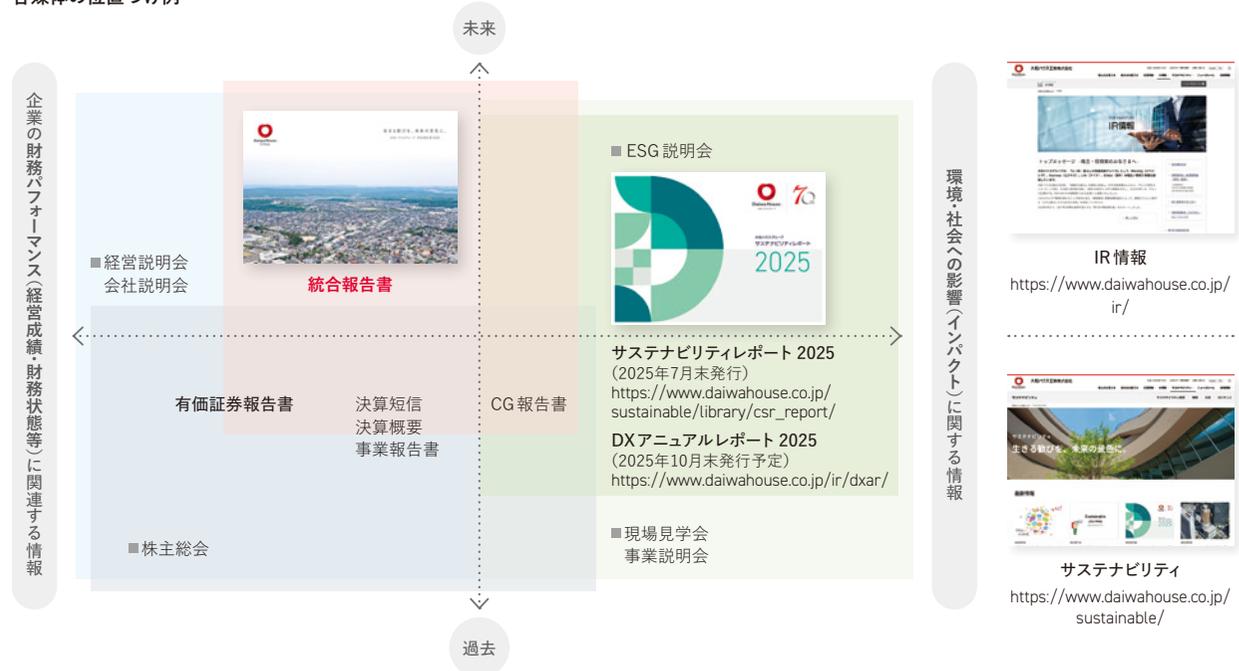
「緑が丘ネオポリス(緑が丘地区・青山地区)」(兵庫県)

大和ハウス工業が1962年より全国61ヵ所所で販売した、郊外型住宅団地「ネオポリス」の一つ。当社は住民の方と共に持続発展するまちを創る「リブネスタウンプロジェクト」を進めています。

 社会的インパクト不動産の取り組み ▶ P.55

### コミュニケーションの全体像

#### 各媒体の位置づけ例



#### 【参考にしたガイドライン】

本書の制作においては、IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省「価値協創ガイドランス」を参考にしています。

#### 【報告の範囲】

本書は、大和ハウス工業を中心に大和ハウスグループ全体(2025年3月31日現在、連結子会社489社、持分法適用関連会社177社)について報告しています。

#### 【将来予測記述に関する特記】

本書には当社グループの見通し、目標、計画、戦略など将来に関する記述が含まれています。これらの記述は、現在入手可能な情報から得られた判断に基づいています。実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

# 「統合報告書2025」目次・各章でお伝えしたいこと

## 企業価値向上に向けた考え方

